

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名			コード	53000	短期人間ドック事業	予算科目	会計	款	項	目	所管課	保険年金課	担当班	国民健康保険班
基本施策			5		保健の充実	根拠法令	旭市国民健康保険短期人間ドック事業実施規則	8	1	1				
施策の展開			12		病気予防対策の充実	戦略事業	59							
施策の展開						戦略事業								

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 ☐ 平成 年度～ ☐ 平成 年度まで		指定医療機関(旭中央病院、飯倉医院等5箇所)で短期人間ドックを受診した被保険者にその費用の70%を助成する。助成上限額は3万円。【対象者】 40歳以上、国保税完納者、医師の治療を受けていないこと又は治療を受けているが支障がないこと、特定健診を受診していない。【検査内容】 1日ドック:尿検査、血清検査、細胞診、血液算定検査、生化学検査、理学的所見、身体計測・血圧、肺機能検査糖代謝検査、視力・眼底検査、心電図検査、背部X線検査、胃内視鏡検査、腹部超音波検査。2日ドック:1日ドック内容、血液型、便検査、聴力検査、直腸診、乳房診、前立腺検査 【受診料】医療機関、ドックの種類によって異なる。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
国保被保険者の疾病の予防、早期発見および早期治療に役立たせることにより健康保持増進と国民健康保険事業の健全運営を図るため。		H17～H22年度まで受診費用の85%助成し、契約医療機関は3件であった。H23年度から、近隣市、他保険者(社会保険等)の状況から受診費用の70%助成として助成上限額を設定し、契約医療機関が2件となった。H26年度より上限額を3万円とし、医療機関が5件となる。H27年度途中より、契約医療機関受診分のみ償還払いを可とした。	旭中央病院の受診枠がすぐ埋まってしまい、希望の日程が取れないとの苦情がある。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)	単位:千円	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
1.人間ドック委託料	37,462	36,205	35,852	35,853	37,462	38,058
2.人間ドック助成金	30	0	58	29	30	60
3.償還払助成金						
4.その他						
事業費計(A)		36,205	35,910	35,882	37,492	38,118
② 特定財源の内訳(29年度の決算)	単位:千円	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
1.国庫支出金	0					
2.都道府県支出金	0					2,307
3.地方債	0					
4.その他	15,024	15,806	15,275	14,702	15,024	14,907
5.一般財源		20,399	20,635	21,180	22,468	20,904

前年度増減理由	
---------	--

従事職員数 常時 1 人 最大 人 × 日 = 延べ 0 人

(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

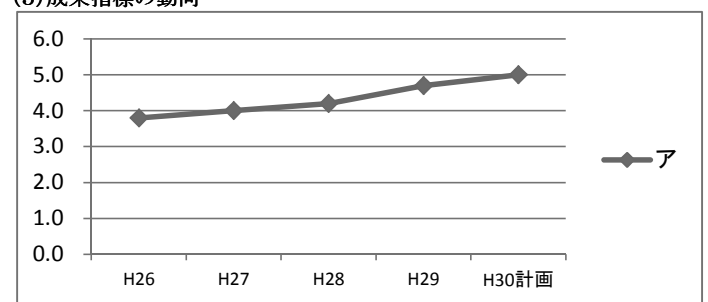
手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動)							
	・人間ドック受検費用を助成(40歳以上国保被保険者)	ア 人間ドック受診者数	人	697	706	725	755	780
	・広報に年2回掲載し、周知を図った。	イ 指定医療機関数	件	5	5	5	5	5
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象 40歳以上で国保税を完納し、特定健診を受診していない国保被保険者	ア 人間ドック受診率(人間ドック受診者数/40歳以上被保険者数)	%	3.8	4.0	4.2	4.7	5.0
	意図 疾病を早期発見する。							
	対象意図 自身の健康に対する意識が向上する。							

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない
施策貢献度	大きい			
	普通		⑤	
	小さい			

② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
		下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
評価結果	①			
	②			
	③			
	④⑤	(4)		
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	② 成果の状況	③ 今年度取組事項(30年度に取り組む主な事項について記載)
	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難	成果指標ア 成果指標イ 成果指標のタイプ 数値増＝成果向上 ☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下 ☐ 横ばい ☐ 低下	時期 内容 今後の方向性
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)			
【コメント】(低下の場合、その理由)			